

12月議会報告

教員の異常な長時間労働を是正し 学校をよりよい教育の場に

学校がブラック職場になっている「いま、教職員の長時間労働が社会問題になっています。」

砂田市議は日本共産党が発表した政策 教職員を増やし、異常な長時間労働の是正を「学校をよりよい教育の場に」を紹介し、なぜ異常な長時間労働が生じたのかを明らかにし、「この改善のために3つの提案をしました。」

提案1 持ち時間数の上限を定め、教員を増やそう

日本共産党はまず 教員の持ち時間数の上限を定め、そのための定数改善計画をおこなうことを提案しました。

そのため、日本全体で小中学校の教員定数を10年間で9万人増やす。最終的に数千億円の予算が必要だが、先進国最下位の教育予算のGDP比を0.1ポイント引き上げるだけで可能です。

国が、教員の授業負担を増やした

現状は、国の教員勤務実態調査(2016年)によれば、小学校教員は1日6コマ(時限)近い授業(4時間25分、小学校の1コマは45分)をしています。もともと、教員の定数は教員1

提案2 学校の業務削減を

格差と貧困の拡大など社会的条件による学校のかかえる課題の増加、教育改革、全国学力テスト、小学校に英語教育などによ

① 教職員の話し合いにむとづき、不要不急の業務の削減・中止を

砂田市議 決められたことを全部やっつて疲れ果てるより、要所をおさえて元気に教壇にたつたほうが、子どもたちにはいい」と話し合い、業務削減を行うこと。

教育長 文科省の業務改善通知は具体例を挙げており、インパクトのある内容だ。教育現場にその内容を伝える。

② 教員以外のスタッフの拡充・常勤化を

教育長 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スタディメイト、多人数学級支援講師、子どもと親の相談員、学校図書館司書を拡充してきた。本年度から部活動指導員を全中学に配

置した。今後にも必要な専門スタッフの確保や勤務時間などの拡充について考えたい。

③ 部活動の負担軽減 学校単位から地域へ

砂田市議 従来の学校単位での活動から一定規模の地域単位での活動をめざすべきだ。部活動ができないから、学校の統廃合が必要だ」という議論は、文部科学省のめざす方向とも違う。

教育長 これからは学校から地域へという流れが生まれつつある。そういうなかで部活動の新しい方向性として地域の連携などがいつそう求められる。市内でも地域クラブで活動されている生徒も少なからず存在している。どのような形で地域への移行が適切なか、検討する。

提案3 教職員の働くルールを確立

残業代をきちんと払い、残業時間規制を 翌朝2時帰宅の実例も

今年度の実例では、小学校の

入校最早時間午前4時39分、退校最遅時間翌日の午前2時48分、中学校の入校最早時間午前3時07分、退校最遅時間翌日午前2時19分でした。こんな勤務でも残業代は払われていないの改善が急務です。

避難所に指定されている学校体育館に 空調設備を

砂田市議 総務省の支援策(緊急防災・減災事業債)の活用も検討して、体育館にもエアコンを設置できないか。

教育委員会事務局長 まずは理科室、音楽室の特別教室から整備したい。

校長会から理科室、音楽室など外部の音や風をさえぎって授業する特別教室のエアコン設置について、毎年継続して要望が出されている。第7次総合計画では特別教室のエアコン設置率を2028年度に100%とする目標を掲げ、今後計画的に整備したい。

体育館については、今年の台風時に石動小学校と東部小学校が自主避難場所となったこともあり、近年の自然災害の発生状況を考えれば、避難所としての環境整備の必要性は認識しているが、まずは特別教室へのエアコンを優先したい。



市民要望を持って

政府交渉する日本共産党地方議員団(参議院議員会館B101会議室) 後列右から3人目が砂田市議

日本共産党が県や政府と直接交渉

日本共産党富山県地方議員団は市民要望を持って昨年11月には富山県と、今年1月23日には国の関係省庁と直接交渉しました。政府交渉には参議院議員の井上さとし氏、武田了介氏、衆議院議員の藤野やすふみ氏も同席しました。いずれも砂田市議が参加しました(写真)。